

■ 教育を受ける際の配慮や工夫 ～ 教育現場で現に行われている配慮や工夫

(公立学校における配慮や工夫については、「大阪府及び府内市町村における障がい者に対する配慮や工夫の事例」に記載)

① バリアフリーに関すること

スロープを設置している。エレベーターを設置している。車いすユーザー対応エレベーター・音声誘導エレベーターを設置している。	私立一貫校、私立小学校、短大、大学
点字ブロックを設置している。	短大、大学
車いすユーザー対応トイレ、多機能(多目的)トイレを設置している。	私立一貫校、私立小学校、短大、大学
教室内の車いすユーザースペースを設置している。	短大、大学
正面玄関に近いところに障がい者用駐車スペースを確保している。	短大、大学
各建物や通路に対してのバリアフリー点検表を作成し、点検表をもとに改修が必要な箇所について、順次計画を立て、解消するよう努めている。	大学
学内バリアフリーマップを作成している。	大学

② 授業に関すること

教材の拡大版を用意している。	短大、大学
拡大読書器を用意している。	大学
音訳を行っている。	大学
ノートテーク、パソコンノートテークによる支援を行っている。	短大、大学
ポイントテークによる支援を行っている。	短大、大学
希望に応じて手話通訳をつけている。	大学
聴覚障がいのある学生に対し、授業では、常に板書を行うとともに、教員が出来るだけ大きく口を開いて話し、その動きでできるだけ理解できるよう工夫している。	短大
授業で使用するビデオの文字おこしを行っている。	大学
ICレコーダー等録音器、補聴援助システム、ノイズを制限するもの等支援機器の提案・設置・貸与を行っている。	大学
体育の授業では、自らの心身状態と折り合いをつけながら可能な活動を選択できるよう特別クラスを編成している。	大学
遠隔講義システムの活用を行っている。	大学

③ 試験に関すること(学内試験・入学試験)

大学入試センター試験受験特別措置に準じた措置を実施している。	大学
入学試験時に特別な配慮を必要とする場合、出願前に申し出るよう募集要項に記載し、個別相談に応じている。	大学
拡大文字の問題、拡大解答用紙の用意をしている。	短大、大学、公立学校
試験時間の延長を認めている。	短大、大学、公立学校
精神障がいのある学生から、定期試験実施時、多人数の教室での試験はパニックになる可能性があるとの相談を受け、別室での受験を実施した。	大学
身体障がい者対応トイレに近い試験室での受験をさせている。	短大、大学
聴覚障がいのある受験生に対し、試験時の口頭の注意事項について、書面により注意を促している。	大学
聴覚・平衡機能障がいのある受験生について、入試の際、前列席とし、試験監督が話す内容を筆談で伝えた。	大学
明るい席を指定する。照明器具を用意する。持参する私用の拡大鏡、補聴器、松葉杖等に対応する。	大学

④ 相談や学生生活の支援に関すること

学生及び保護者からの支援要請に基づき、一人ひとりのニーズに応じた支援計画を作成し、支援を行っている。	大学
学生相談室を設置し、専門カウンセラーをおいている。心理カウンセラーや心療内科医を配置している。保健管理センターと連携している。	私立一貫校、大学
緊急時対応のための連絡カードを用意している。	短大
オープンキャンパス、入学式、卒業式、就職イベント等学内イベントに対する参加への支援を行っている。	大学
聴覚障がいのある学生に対し、本人の意向を聞きながら、入学式や講演会で手話通訳を用意した。	短大
発達障がいのある学生に対しては、配慮事項について個別相談し、授業担当及び指導教員との連絡・連携などを行っている。	大学
学内の車両乗り入れを認めている。	短大、大学

⑤ 就職支援に関すること

求人票に障がい者採用有無の記入欄を設け、障がい者向けの求人票ファイルを設置し、情報を提供している。	大学
学外の障がい者向けイベント情報の提供や、障がい者対象の就職支援団体の紹介をしている。	大学
障がい者向けの求人、企業説明会、インターンシップ等の就職関連情報を収集・提供している。	大学
就職支援は、すべて個別対応を実施している。障がいの程度に応じたアドバイス等を行っており、メンタル面についても、十分気をつけながらフォローしている。	大学

⑥ 障がい理解に関すること

手話教室の実施や、耳の不自由な方と交流の場を持つなど、障がいへの理解を深めるための体験学習を行っている。	私立一貫校
障がいのある学生への理解を深めるため、毎年、4月の学生ガイダンスの際、障がいのある方を招いて、学生や教員に対し研修会を実施している。	短大
学生へ障がいの理解を深めるためのピアサポーター研修を実施している。	大学
発達障がいを含め、配慮を必要とする学生の理解を深めるための研修を、年一回、カウンセラーを講師として実施している。	大学
支援協力学生の協力を得て障がいのある学生の支援を行っている。手話講習会、パソコン講習会、ノートテイク講習会などを開催し支援協力学生等の養成を行っている。	大学
学生が主体となったノートテーカー、パソコンテーカーの養成講座を行っている。	大学
授業の一環として、視覚障がい体験、聴覚障がいの擬似体験や車椅子で介助者・被介助者の役割を交代しながら、バリアフリーを点検するなどの障がい者の理解を深める教育を行っている。	大学
学生自らが企画実践する「学生チャレンジプロジェクト」の公募を行い、その中から「障がい学生支援プロジェクト」(本学に通う障がいのある学生を支援し、充実した学生生活が進められるよう「活動」(交流イベント「しゃべり場」と「環境」(バリアフリーマップ冊子)の2領域の企画立案・実行)を採択した。	大学

⑦ その他

図書館の窓口で、視覚障がい者のための拡大鏡や、聴覚障がい者と職員とのコミュニケーションのための電子メモパッド等を備えている。	大学
論文執筆等を支援するため、文献収集補助、データベースの代行検索、利用希望資料を取りに行くなどの支援を行っている。	大学
居場所の確保を行っている。	大学
肢体不自由の学生の介助を行っている。	大学
自動扉ではない一部の出入り口では、チャイムカードを学生に持ってもらって、職員が扉の開閉を行っている。	大学
肢体不自由の学生に対し、段差等の理由で学内での健康診断受診が困難であるため、提携医療機関で受診してもらっている。	大学